食物アレルギー（アナフィラキシーショック出現時）の緊急対応について

野洲市教育委員会

食物アレルギーをもつ児童・生徒に対しては、学校ではその児童・生徒の情報をしっかり収集し、万が一のときに、すべての関係者が理解し対応できる体制をとっています。主治医と保護者、保護者と学校が綿密な連絡をとることで、児童・生徒の学校での生活がより安全で快適なものになります。

☆全職員共通理解のもと、児童管理を行う

児童生徒の理解、配慮
（クラス→学年→全体）

食物アレルギー既往
児童生徒の把握

〈過去のアレルギー症状の情報〉
・原因
- 何の食物か？
- 食べてどれくらい経つか？
- 何をしていた時か？

・どんな症状か？
・アレルギー症状出現時の対応確認
（保護者、主治医等との確認事項）

食物アレルギー出現

主に軽度の
皮膚・消化器・呼吸器症状が見られる

皮膚症状（じんましん、かゆみ、体を掻く動作；数か所程度）、**消化器症状**（嘔気、一過性の腹痛、気持ち悪さ、口の中や喉の違和感）、**呼吸器症状（くしゃみ、鼻水、咳；10回未満）**、その他（元気がない）など ※1

処方薬なし

処方薬あり
アレジオン、アレロックなど

保護者への連絡

内服薬投与
服薬した時刻を確認し、子どもの状態を観察する
＊脈拍、体温（時に血圧）測定

経過観察
最低30分は子どもから目を離さず、症状の変化を十分に観察する
＊血圧、脈拍、体温測定

症状改善
子どもの状態または保護者と相談の上、授業参加を継続するかどうか検討する

症状悪化
注射した時刻を確認し、子どもの状態を観察する

即時に重度の
皮膚・消化器・呼吸器・循環器・神経症状が見られる

皮膚症状（全身性のじんましん、著しいかゆみ、血管性浮腫；むくみ）、**消化器症状**（３回以上の嘔吐または下痢、持続する腹痛）、**呼吸器症状**（咳；１０回以上、喘鳴、呼吸困難、飲み込みづらさ）、**循環器症状**（頻脈；90回～100回/分以上、顔色不良、血圧低下）、**神経症状**（ぐったりしている、めまい、意識消失）など
※2　＊血圧、脈拍、体温測定

アドレナリン自己注射薬
（エピペンなし）

エピペンあり

アドレナリン自己注射薬（エピペン投与）
注射した時刻を確認し、子どもの状態を観察する
＊血圧、脈拍、体温測定

保護者および救急車連絡＊連絡先＿＿＿＿＿＿＿＿

＋ 病院への連絡
＊野洲病院 587-1322
＊かかりつけ＿＿＿＿＿＿＿＿

病　院　搬　送
必ず、児童生徒の状態の経過を伝えられる職員が引率する

※1，２の詳細については別紙資料〈重症度評価表〉を参照